



国際子ども図書館 学校図書館セット貸出し バリアフリーセット 小学校向 内容紹介

このセットに含まれる本の内容紹介です。

学校での本の紹介や展示、学校図書館での選書などにご利用ください。

※外国語の本にある日本語タイトルは参考訳です。

1. 新しい心のバリアフリーずかん：きみの「あたりまえ」を見直そう！

中野泰志 監修，千谷文子，石井信子，川島晶子 文・構成，野田節美，内田尚子 イラスト

ほるぷ出版 2018年

様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深め、支え合う「心のバリアフリー」の図鑑。イラストを用いて、町や交通機関、学校などの場面ごとに、具体的なバリアの存在や、その場に居合わせた人に求められる行動などを紹介している。巻末に索引あり。

2. きいてみよう障がいってなに？ 1（そもそも障がいってどういうこと？）

石川憲彦 監修

ポプラ社 2015年

「障がい」とはなにか、誰が決めているのかなど、盲ろう、肢体不自由、発達障がいなど様々な障がいを持つ当事者や、障がいを持つ人を支える人たちのインタビューを通じて考える。巻末に索引あり。

3. きいてみよう障がいってなに？ 2（どんな学校になったらいいと思う？）

石川憲彦 監修

ポプラ社 2015年

NHKのEテレ「バリバラ」で2014年8月に放送された「コドモ×バリバラ “学校をデザインするプロジェクト”」をメインに取り上げている。出演した障がいを持つ子どもたちが、実際に学校で困っていることや、こうなったらよいと思うことなどを語っている。巻末に索引あり。

4. みんなで楽しもう！UD（ユニバーサルデザイン）スポーツ 3（UD スポーツにチャレンジ）

大熊廣明 監修，こどもくらぶ 編集

文研出版 2019年

「UD（ユニバーサルデザイン）スポーツ」を紹介する3冊シリーズの3巻目。障がいがある人もない人も、子どももお年寄りもみんなが楽しめるUDスポーツ。パラリンピック正式競技のボッチャ、室内版カーリングなど10種目を用具ややり方とともに紹介する。巻末にUDスポーツ競技団体・インターネット情報源のデータ、索引あり。

5. 車いすの図鑑：バリアフリーがよくわかる

高橋儀平 監修

金の星社 2018年

車いすのしくみや種類、動かし方などの基本的な事項から、車いすでの介助のポイントまで、誰にも役に立つ車いすとバリアフリーのあり方についてまとめられた図鑑。日常生活で使われる車いすだけでなくスポーツ用の特別な車いすなども紹介する。巻末に索引あり。

6. あったらしいな、こんな義手（楽しく知ろうバリアフリーからだをたすける道具）

斎藤多加子 著

汐文社 2020年

義手の種類や使い方、しくみなどをユーモアを交えて紹介した本。本物そっくりに作られていたり、個性的なデザインだったり、筋肉の電気信号によって操作できたり、演奏などの特定の動作に特化したりなど、様々な見た目や機能を持つ義手が登場し、義手の進化の様子が分かる。同じシリーズに義足と車いすについての本もあり。

7. ルイ・ブライユと点字をつくった人びと

高橋昌巳 監修，こどもくらぶ 編

岩崎書店 2016年

フランスのルイ・ブライユが、どのようにして点字を考案したのかをその生涯とともに紹介する。また日本点字の父と呼ばれる石川倉次らによって考えられた日本語の点字ができるまでの道のり、点字器、点字新聞、点字図書館などについての記載もある。巻末に索引あり。

8. 点字どうぶつえん

菊地清 絵，同友館編集部 編

同友館 2000年

あひるやさる、たぬきなど、動物の名前を点字で表すとどうなるかを紹介する。そのほかの動物の絵の中に隠された点字をヒントにして動物名前あてクイズもできる。五十音が中心だが、アルファベット、数字の点字も紹介されている。点字部分は立体的ではないが、一部に穴があけられていて触ることができる。

9. さわるめいろ（てんじつきさわるえほん）

村山純子 著

小学館 2013年

点字と同じ小さな点々でできた線を指で触ってたどっていく迷路。表紙も含めて11種類の迷路は、色と模様が工夫され、見えても見えなくても楽しめるように作られている。現在、3冊目（『さわるめいろ3』）まで出版されている。

10. かず （さわってたのしむ点字つきえほん 1）

フラー・スター 文，ジェンマ・ウェスティング デザイン
ポプラ社 2017年

1のページには「1」を表す点字とジャンパーのような布地を貼った1枚の上着の絵、2はつるつるしてゴムみたいな手触りの2つの長靴。10までの数がいろいろな触り心地の絵で表されている。簡単な文章が点字と墨字（目で見える文字）で添えられている。色合いもきれいで、見える子も見えない子も見えにくい子もいっしょに楽しめる。

11. テルミ

日本児童教育振興財団

視覚に障がいを持つ子どもたちを対象にした雑誌。点字と墨字（目で見える文字）が併記されている。迷路やクイズ、いろいろなテーマの記事、料理のレシピなどを掲載。隔月発行。

12. あそんでおぼえる手話 1（はじめての手話）

江副悟史 監修，こどもくらぶ 編・著
岩崎書店 2019年

あそびながら手話が自然に覚えられるシリーズ。「いろんな手話を見てみよう」の章では手話の種類などが紹介され、「手話をおぼえよう」「手話であいさつしてみよう」では具体的な手の動かし方などがわかるようになっている。巻末に索引あり。

13. 耳の聞こえないメジャーリーガー ウィリアム・ホイ

ナンシー・チャーニン 文，ジェズ・ツヤ 絵，斉藤洋 訳
光村教育図書 2016年

1862年に生まれ、幼いときに聴力を失ったアメリカの野球選手の伝記絵本。盗塁や守備で活躍しただけでなく、現在見られるような審判のジェスチャーや選手のサインプレーのもとを作り、試合のやり方を変えたとされる。巻末に解説と年譜あり。

14. しゅわしゅわ村のどうぶつたち（手話ではなそう）

くせさなえ 作・絵
偕成社 2013年

「ねこ」「ねる」「くま」「つよい」など、動物の名前や簡単な動詞や形容詞の手話を紹介しながら、動物たちとおぼけたちが仲良くなるシンプルなストーリーの絵本。絵の中に出てきた手話を探すページもあり、遊びながら手話に親しむことができる。

15. わたしたちのトビアス

セシリア＝スベドベリ 編，山内清子 訳
偕成社 1978年

生まれてきた弟トビアスはダウン症という障がいをもっていた。4人の兄姉は、弟を施設に預けようかと相談する両親に大反対。障がいを持つ人と持たない人が共にくらすことの大切さを伝えるスウェーデンの絵本。4人の子どもたちの文を母親がまとめ、4番目の当時7才の姉が絵を描いた。続編2冊あり。

16. クッキーづくりの仕事：洋美さんの1日（仕事に行ってきます1）

埼玉福祉出版部 2018年

本書は、知的障がいのある人や日本語を母語としない人でも理解できるよう、やさしい日本語と写真、ピクトグラムを用いたLLブック（LLはスウェーデン語で「やさしく読める」を意味する語の略）。知的障がいなどを持った人が働く様子を伝える「仕事に行ってきます」シリーズ第1巻では、クッキー工場に勤める柴田洋美さんが夢に向かって仕事や勉強に励む様子が紹介されている。

17. アイちゃんのいる教室

高倉正樹 ぶん・しゃしん
偕成社 2013年

ダウン症のアイちゃんが通常学級の中でみんなと過ごす日々を記録した本。たまにはぶつかることもあるけれど、手伝うこと、見守ること、待つこと、どれも自然に受け入れるクラスのみんなと一緒に、1年生から2年生へと成長していく姿を写真入りで紹介する。

18. アラヤシキの住人たち

本橋成一 写真と文
農山漁村文化協会 2015年

長野県北部の山中に江戸時代から建つ大きな屋敷、アラヤシキで、障がいのある人とない人が農業を営みながら共同で生活している様子を紹介した写真絵本。同タイトルのドキュメンタリー映画も制作されている。

19. だれもしらない

灰谷健次郎 作，長谷川集平 絵
あかね書房 1981年

まりことおかあさんは毎朝、家から養護学校のバス停までの200メートルの道を40分かけて歩く。決まった場所で休憩しながらのゆっくりした歩みの中で、喫茶店のおねえさんやパン工場の職人さん、ネコのクロやマツバボタンの花など、なじみの相手と挨拶を交わし、みちたりた気持ちになる。いろいろなまりこの姿の挿絵がついた短い読み物。

20. ぼく、アーサー

井上こみち 文，堀川理万子 絵
アリス館 2018年

盲導犬アーサーとユーザー（目の不自由な人）であるノリオさんの10年間を通して、盲導犬の仕事とその一生を紹介する絵本。盲導犬になるまでの訓練、盲導犬とユーザーの強い絆、盲導犬の引退後の生活なども知ることができる。

21. 介助犬レスキューとジェシカ：人生をかえた友情の物語

ジェシカ・ケンスキー，パトリック・ダウネス 文，スコット・マグーン 絵，よしいかずみ 訳，
日本介助犬協会 日本語版監修
BL出版 2019年

けがで両足を失った少女ジェシカとその日常生活の手助けをする介助犬レスキューが、共に生きる力を与え合う姿を描いた絵本。著者が経験した実話がもとになっている。巻末に、介助犬を含む補助犬についての解説あり。

22. ロで歩く

丘修三 作，立花尚之介 絵
小峰書店 2000年

骨の発育が悪いため寝たきりのタチバナさんが、町で偶然出会う人々に車輪付きベッドを押してもらいながら、散歩をする一日を描いた創作読み物。予備校に通う学生、神がかりのおばさん、学校に行きたくない小学生、ボランティア活動する高齢女性などに会う。不快な思いもするが、人の言葉や行動に救われもする。誰もがなにかの役割を担い、支えあいながら生きていることを教えてくれる。

23. てとてとてとて 新版

浜田桂子 さく
福音館書店 2008年

様々な手の役割を紹介した絵本。手は日常の様々な動作で使うほか、手話を使って話をしたり、点字を使って字を読んだりすることもできる。そして拍手や握手、手と手をつなぐことで、自分の気持ちを伝えることもできる。「てってすごいなあ」。

24. ジャガーとのやくそく

アラン・ラビノヴィッツ 作，カティア・チエン 絵，美馬しょうこ 訳
あかね書房 2015年

野生動物の保護活動に携わる動物学者、アラン・ラビノヴィッツのノンフィクション・ストーリー。小さい男の子だった時のアランは吃音に悩んでいたが、大好きな動物にならすらすらと話せた。「ぼくが声を見つけたら…」と彼がブロンクス動物園の檻の前でささやいた約束を果たすまでを描いた。

25. 二年二組のたからばこ

山本悦子 作, 佐藤真紀子 絵
童心社 2018年

たからくんの落とし物を入れておくために用意された「たからばこ」。なぜいつも落とすの？なぜ落としても平気なの？なぜ全部に名前が書いてあるの？隣の席のみなちゃんの疑問は、たからくんの本当の気持ちが明かされたときに解決する。読み物。

26. ありがとう、フォルカーせんせい

パトリシア・ポラッコ 作・絵, 香咲弥須子 訳
岩崎書店 2001年

作者パトリシア・ポラッコの自伝的な絵本。文字や数字を読むことができず、学校でいじめられ自信を失っていたトリシャだったが、5年生の時に会ったフォルカー先生の理解と指導によって文字を読むことができるようになり、将来への希望を取り戻す。巻末にLD（学習障がい）についての解説あり。

27. はせがわくんきらいや

長谷川集平 著
復刊ドットコム 2003年

著者の幼少期の経験をもとにした絵本。1955年に森永乳業製の粉ミルクにヒ素が混入し、それを飲んだ乳幼児に多数の死者、中毒患者を出した森永ヒ素ミルク中毒事件が起こった。乳児期にこのミルクを飲んだ影響で体の弱い長谷川くと周囲の友だちとのかかわりが、友だちの視点から描かれている。

28. わたしの妹は耳がきこえません

ジーン=W=ピーターソン 作, デボラ=レイ 絵, 土井美代子 訳
偕成社 1982年

耳の聞こえない妹のことを、姉の視点から愛情深く伝えた絵本。実際に耳が聞こえない妹を持つ作者のピーターソンの体験から描かれている。白と黒の柔らかなタッチの挿絵と、聴覚障がいを持つ幼い妹の思いを代弁する文章で、この妹を身近に感じることができる。

29. おにいちゃんとおぼく

ローレンス・シメル 文, フアン・カミーロ・マヨルガ 絵, 宇野和美 訳
光村教育図書 2019年

すごく記憶力がいいし、お話も上手、自分だけの犬ともいつも一緒に、暗闇で本を読むことができる兄。友達のカルロスの家での遊びは自由気ままで楽しいけれど、自分の家では兄のためにももの置き場をきちんとしなければいけないので同じようにめちゃくちゃにして遊べない…。それでも兄に感嘆し兄のことを誇らしげに語る、”ぼく”の思いを描いた絵本。

30. みえるとかみえないとか

ヨシタケシンスケ さく、伊藤亜紗 そうだん
アリス館 2018年

うしろが見える目がある星の人から見れば、自分の背中が見えない地球人はかわいそう？感じ方はいろいろで、その人にしか分からないことはあるけれど、違うところに「へー！」となるのも楽しそう。「障がい」という言葉を使わずに、だれにでもある「違い」をゆるやかに自由に考える絵本。

31. おばあちゃんとバスにのって

マット・デ・ラ・ペーニャ 作、クリスチャン・ロビンソン 絵、石津ちひろ 訳
鈴木出版 2016年

雨の日曜日、ジェイはおばあちゃんとバスに乗ってボランティア食堂に向かう。目の不自由な人をはじめとするいろいろな人との出会いや、いつもすてきなものを見つけるおばあちゃんとの会話を通して、ジェイの不満や疑問は明るい気持ちに変わっていく。2016年にアメリカでもっとも優れた児童書に与えられるニューベリー賞などを受賞した絵本。

32. ばあばは、だいじょうぶ

楠章子 作、いしいつとむ 絵
童心社 2016年

いつも「だいじょうぶだよ」とぼくを励ましてくれていたばあばが、同じことを何度も聞き、隣の家の花を荒らし、枯葉のお茶をすすめてくる。ぼくはだんだんばあばと距離を置くようになるなか、ある日家からはあばがいなくなる。認知症の家族との関わりを小学生の視点から描いた絵本。

33. あみちゃんの魔法のことば：夢をかなえる15の物語

ふじもとみさと 文
文研出版 2019年

生まれつき手足がほとんどない先天性四肢欠損症のあみちゃんこと佐野有美さんが、27歳で結婚するまでを描いたノンフィクション。「生まれてこなくていいのちはひとつもないのです」「できないことを他人とくらべない」など、いろいろなことにチャレンジしてきた本人の言葉とともに、家族や学校生活、恋愛などの15のエピソードが書かれている。

34. 義足と歩む：ルワンダに生きる日本人義肢装具士

松島恵利子 著
汐文社 2019年

1994年に起こったルワンダ大虐殺によって手足を失った人々のため、20年以上にわたって義足を配布する活動を続けてきた義肢装具士のルダシングワ真美さん。彼女の取組みを豊富な写真と共に紹介するノンフィクション。

35. 風を切って走りたい! : 夢をかなえるバリアフリー自転車

高橋うらら 著
金の星社 2019年

体の不自由な人たち、一人ひとりに合わせた自転車を40年間作り続けてきた堀田健一さん。物作りが大好きだった堀田さんの少年時代から、様々な苦難を乗り越えながら、家族で自転車製作を続けた半生を描くノンフィクション。

36. えほん障害者権利条約

ふじいかつのり 作, 里圭 絵
汐文社 2015年

2006年に国連総会で採択された障害者権利条約が2014年に日本で批准されるまでの経緯や、同条約の意義が平易な言葉で説明されている。巻末にもっと知りたい人に向けた解説、障害者権利条約までのあしあと(年表)あり。

37. 障害者権利条約

外務省総合外交政策局人権人道課 編
国内広報室 2018年

障害者権利条約(「障害者の権利に関する条約」)についてわかりやすくまとめた冊子。条約の主な内容、日本での取組みなどが紹介されている。後半部に条約の全文を日本語と英語で収載。

38. Off to the park! (英語) 公園へ!

illustrated by Stephen Cheetham
Child's Play 2014年

“公園”を“触って”紹介する絵本。履いていく靴、横断歩道の信号、ボール遊び、ブランコ、滑り台などをそれぞれの特徴をあらわした材質を使うことにより触って想像できる。たくさん遊んだあとのお楽しみ(最後のページ)は何?* 韻をふんだ英語の文がついているが、読めなくても楽しい。

*: アイスクリームの絵をこすると甘い匂いがします

39. It can't be true! : incredible tactile comparisons (英語) 科学絵本: それほんとう!?

Dorling Kindersley Limited 2016年

「太陽の大きさはどのくらい?」「一番大きな眼を持つ生き物は?」「ピラミッドの重さはどのくらい?」といった様々な疑問を、図版や身近な比較対象を用いてわかりやすく解説した子ども向けの本を再編した点字版。図版にもすべて凹凸が付けられていて、指で触って読み取ることができる。英語の点字を読み取るのは難しくても、このような知識の本も点字になっていることを知ってほしい。もとの版は『信じられない現実の大図鑑』(東京書籍)として翻訳出版されている。

40. Not so different : what you really want to ask about having a disability First edition (英語)

そんなに違わないよ : 障害について君が本当に聞きたいこと

by Shane Burcaw, with photographs by Matt Carr

Roaring Brook Press 2017年

全身の筋肉が衰え、歩行などの運動全般が困難になる脊髄性筋萎縮症 (SMA) である著者が、自身の日常について紹介した写真絵本。「どこが悪いの?」「どうして体の他の部分に比べて頭が大きいのか?」などのよく聞かれる質問にユーモアを交えながら答えている。

41. うえをみて!

チョンジンホ えとぶん, 斎藤真理子 やく

ハッピーオウル社 2024年

42. 위를 봐요! (韓国語)

정진호 지음

현암사 2014年

脚が不自由でいつも自宅のバルコニーから下の通りを眺めている女の子スジが、道行く人に存在を気づいてもらい、距離を縮める様子を描いた韓国の創作絵本。2015年にグラフィック及び編集の品質が優れた児童書に贈られるボローニャ・ラガッツイ賞を受賞。

国立国会図書館 国際子ども図書館
児童サービス課 児童サービス企画係
URL : <https://www.kodomo.go.jp/>